

重点施策8 人権文化の根づくまちづくりをめざし、あらゆる 差別、偏見を解消するための人権・同和教育の推進

【施策方針】

日本国憲法は、日本国民に総ての基本的人権の享有を認め、法の下に平等であることを保障している。この法の精神を人権・同和教育実践の中で養い、差別のない明るく住みよいまちづくりを推進するため、生涯学習の観点に立ち教育条件の整備と推進体制の充実、人権尊重の意識の高揚を図る啓発活動並びに人権に関する総合的な学習活動の推進に努め、人権啓発課とともに同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決に努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 市人権・同和教育研究大会の開催
- ② 人権問題学習講座の開催
- ③ 連合子ども会交流事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 市人権・同和教育研究大会の開催

2月17日(土)に、市人権・同和教育研究大会が開催された。午前中は、「就学前教育、社会教育、家庭教育」「小学校教育、行政・企業・福祉会館等」「中学校・高等学校教育、行政、企業、福祉会館等」の三つの分科会が行われ、午後は全体会として市民約700名が参加して、小・中・高校生の代表による人権作文の発表後、子どもの学び館代表取締役福永宅司氏による同和問題に視点を当てた一人芝居「ひかり」の公演が行われた。

② 人権問題学習講座の開催

18年度までは、2地区公民館で4回ずつ計8回開催していたが、開催地区公民館の負担軽減と参加者の固定化を防ぐため、19年度から4地区公民館で2回ずつ計8回の開催に変更し、29年度は江戸岡、神山、川之内、磯津の4地区公民館において行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座の開催を心がけることにより、多数の方に参加していただくことを目指して、外部講師や生涯学習課から社会教育指導員を派遣し講座を実施した。

③ 連合子ども会交流事業の充実

毎年、夏休みの初めに市連合子ども会交流会を開催している。この会を通して、普段顔を合わせる機会の少ない他の地区(校区)の子ども同士が、仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことができている。29年度は、40名が参加し、午前中は保内中央体育館においてカローリング等のゲームで親睦を深め、昼食後、伊方町室鼻公園のプールで水泳を行い、子どもたちの交流を深めることができた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 市人権・同和教育研究大会の開催に当たっては、市内教育・行政・企業等、各種団体へ案内されている。午前は3分科会で問題提起や協議が行われ、午後は人権作文発表、講演会と一日日程であり、県下各地からの来訪者もあり、充実した研究大会となっている。

分科会では、人権教育の観点から小・中・高校・保育所だけでなく、福祉会館、高校定時制卒業者（79歳の方）など幅広い分野からの発表があり、人権に関する熱い思いを語られたり、実体験をとおして問題提起されたりした。参加者の意見交換も活発にされた。

全体会では、まず、小・中・高校生の代表による人権尊重作文の発表があった。児童生徒の訴える人権感覚には学ばされることが多い。講演会では、福永宅司氏による一人芝居（「ひかり」）があった。主人公が同和問題など様々な人権問題について話を聞いたということ想定した一人芝居だった。主人公は差別は許されないという思いが高まり、差別解消を目指す教師になろうと決意したという内容だった。観客の心情に訴えるものがあった。
- 地区公民館で主催する人権問題学習講座は、住民が主体的に計画し、全公民館で実施された。毎年、4つの公民館が指定（平成29年度は江戸岡、神山、川之内、磯津公民館）され、地区館主催講座と出前講座の年2回実施している。ブロック別人権講演会への参加や、近隣公民館との共催研修もあった。独自で障がい者施設見学や多彩な講師を招いて人権講座を開催したところもあった。出前講座は、隣保館館長や社会教育指導員が講師として出向いた。

公民館での人権問題学習講座は、高齢者学級、婦人学級、地区役員会等の場で行った。参加者集めのために公民館職員の方にはご配慮をいただいている。研修内容は身近な話題を取り入れた内容なので、意見感想等も多くいただいております、学習意欲や関心の深さを感じた。

公民館にはDVD再生装置が付いた大型テレビが設置されているところがあり、全館に整備されると、視聴覚機器の持ち込みをせずに、DVD視聴利用ができるので要望したい。
- 連合子ども会は、1日かけて、午前中は保内中央体育館（カローリング）、午後は伊方町室鼻海水浴場で市内3小学校の児童・保護者、指導者あわせて約40名が参加した。カローリングは4班に分かれて実施した。1回目よりは2回目とゲームの要領が分かり、うまくなってきた。下学年は上学年が上手にするところをしっかりと見て、上学年はチーム全体のお世話をしながら、子ども同士でほほえましく協力しあい、仲間づくりができた。

【自己評価】

- 八幡浜市人権・同和教育研究大会については、毎年1,000人近い市民が集い、人権問題を解決するために学習する場として有意義な大会と考えており、参加者の意見も取り入れながら今後も分科会・全体会共に多くの市民に参加していただける大会になるよう努めていきたい。
- 地域での人権問題学習講座については、参加者の底辺拡大に力を注ぎ、「更なる一歩」を踏み出せるよう関係団体とともに今後の講座の在り方を考え、より一層の推進に努めていきたい。

- 連合子ども会交流事業については、例年であれば午前中に工作などを行っていたが、今回は利用会場の問題などもありカラーリングを行った。毎年参加している子ども達にも楽しんでもらえたと思う。また、短時間の交流会ながら子どもたちの成長を感じることができることから、今後も関係部署と連携し、この事業を継続していきたい。